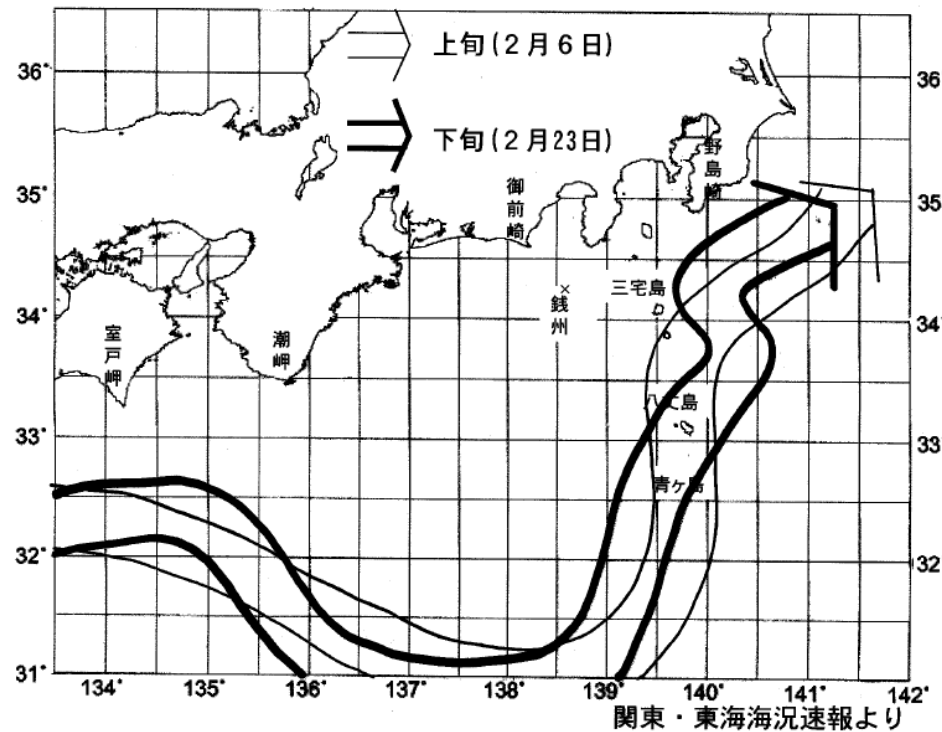


漁海況月報

平成30年2月1日

No. 2 ~2月28日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値(°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	13.1	14.1	13.2	15.6	14.7	13.4
	-0.8	-0.3	-0.6	1.2	0.6	-0.2
中旬	13.1	13.8	12.7	14.3	14.1	13.0
	-0.8	-0.3	-1.0	0.1	0.1	-0.4
下旬	12.9	14.6	13.7	14.8	13.6	13.1
	-0.8	0.5	0.0	0.4	-0.1	-0.3
月	13.0	14.2	13.2	14.9	14.2	13.1
	-0.8	-0.1	-0.5	0.6	0.2	-0.3

*地頭方の水温観測は終了しました。

【黒潮流路】

2月を通じてA型で、上旬は潮岬沖31.5°Nから東南東に進み、31°N、138.5°E付近から北北東に進み、32°N、140°E付近から北上し、33.5N、140°E付近から北東に進んだ。中旬は潮岬沖32°Nから南東に進み、31°N、137°Eから東北東に進み、32°N、140°Eから僅かに西向きに北上し、34°N、139.5°Eから東北東に進んだ。下旬は潮岬沖31.5°Nから南東に進み、31°N、137°E付近から東に進み、31°N、138.5°E付近から北北東に進み33.5°N、140°Eから北西に進んだ後、34.5°N、140°E付近から北東に進んだ。

上旬に、三宅島付近から遠州灘沖34.5°N付近を通り熊野灘に向かう西向きの黒潮内測反流がみられた。

【県下沿岸域】

2月上旬は、伊東、下田「やや低め」、稲取、焼津「平年並」、雲見、沼津「やや高め」であった。中旬は、伊東、下田「やや低め」、稲取、雲見、沼津、焼津「平年並」であった。下旬は、伊東「やや低め」、稲取、下田、雲見、沼津、焼津「平年並」であった。

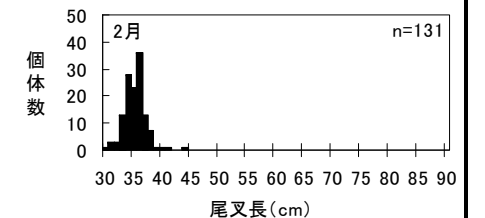
【竿釣カツオ】

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚量は59トンで前年同月(46トン)の1.3倍であった。魚価は279円/kgで前年同月(353円/kg)を下回った。

漁場は30-31°N、138-139°Eの伊豆諸島南部周辺海域であり、水揚げされた魚体のサイズは、チン(尾叉長34~36cmモード)を主体に、極小(尾叉長38cmモード)、小(尾叉長44cmモード)であった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
30年2月上旬	3	2	3.2	500
中旬	56	4	18.5	267
下旬	0	—	—	—
30年2月計	59	6	14.7	279
29年2月計	46	4	11.4	353
28年2月計	46	6	7.7	424



【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は96.3トンで前年の同漁場の水揚量(121トン)の80%であった。また、1か統あたりの水揚量は、13.8トンで前年(17.3トン)の80%、平年(昭和57~平成29年の平均30.5トン)の45%であった。水揚量の多い漁場は、北川漁場(39.4トン、ブリ、スルメイカ、さば類)、次いで川奈漁場(35.5トン、マイワシ、ブリ、さば類)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)のとおりで、ブリは35.6トンで、銘柄ぶり、わらさ主体であった。銘柄ぶりは22.9トンで前年比21倍、平年比1.4倍、銘柄わらさは11.8トンで前年比14倍、平年比4.7倍と好調であった。マイワシは22.5トンで前年比1.5倍、平年比1.2倍であった。さば類は12.9トンで前年比55%、平年比51%であった。さば類のうち、マサバは6.6トンで前年比1.2倍、

平年比1.9倍であったが、ゴマサバは6.2トンで前年比35%、平年比27%と低調であった。漁獲サイズはマサバもゴマサバも尾叉長30～35cm主体であった。スルメイカは10.6トンで前年比11.1倍、平年比41%と低調であった前年を大きく上回った。ヤリイカは2.7トンで前年比6.9倍、平年比2.7倍と前年、平年を上回った。その他の魚種については、カタクチイワシが4kg（前年同月は65.8トン）と、ほとんど漁獲が無かった。

多獲された魚種の主な漁場は以下（表）のとおりで、ブリは北川漁場が76%（27.1トン）、川奈漁場が20%（7.3トン）、マイワシは川奈漁場が99%（22.3トン）、さば類は伊豆山漁場が30%（3.8トン）、北川漁場が25%（3.3トン）、スルメイカは北川漁場が52%（5.5トン）、富戸漁場が23%（2.5トン）、ヤリイカは伊豆山漁場が26%（0.7トン）、川奈漁場が25%（0.7トン）を占めた。

（表）多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量（トン）	前年比	平年比	主な漁場
ブリ	35.6	17.3	1.8	北川、川奈、谷津
マイワシ	22.5	1.5	1.2	川奈
さば類	12.9	0.6	0.5	伊豆山、北川、川奈
スルメイカ	10.6	11.1	0.4	北川、富戸、古網
ヤリイカ	2.7	6.9	2.7	伊豆山、川奈、北川

【サバたもすくい網】

小川港所属の棒受網漁船は全船がたもすくい網で操業し、漁場は月を通じて三本に形成されたが、中旬には一時的に銭洲海域に漁場が形成された。水揚量はマサバ698トン（前年同月比1.4倍）、ゴマサバ27トン（前年同月比30%）であり、1隻あたり水揚量はマサバ23.3トン（前年同月14.8トン）、ゴマサバ0.9トン（前年同月2.7トン）であった。1kgあたり平均単価はマサバ109円で前年同月（145円）、前月（137円）を下回った。ゴマサバは136円で前年同月（113円）、前月（121円）を上回った。

漁獲されたマサバの体長組成は30cmにモードを持つ単峰型を示した。ゴマサバの体長組成は29cmと37cmにモードを持つ2峰型を示した。

小川港 さば類（たもすくい網漁業）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
30年2月上旬	318	9	3	10	31.8	0.9	114	138	三本
中旬	116	6	2	6	19.3	1.0	116	165	銭洲、三本
下旬	265	12	5	14	18.9	0.8	99	119	三本
30年2月計	698	27	10	30	23.3	0.9	109	136	三本、銭洲
29年2月計	504	90	13	34	14.8	2.7	145	113	三本、銭洲、三宅
28年2月計	1,185	54	15	48	24.7	1.1	134	114	三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【まき網（いわし類）】

マイワシの水揚げは、小川港では517.9トン（前年同月比61.7%、平年同月比1.1倍）、沼津港では812.7トン（前年同月比95.6%、平年同月比1.5倍）、伊東港では154.1トン（前年同月比8.3倍、平

年同月比2.5倍）、静浦港では無かった。カタクチイワシの水揚げは全ての港（小川港、沼津港、静浦港、伊東港）で無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網8か統の水揚げは、マイワシが22.5トン、カタクチイワシが4kgであった。

*平年：過去5か年(平成25～平成29年)平均値

【調査船駿河丸の動向】

2月 7日	～	2月 8日	地先定線観測調査	(2日間)
2月 9日			ドック回航	(1日間)
2月 9日	～		ドック	

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

